



2023年度 日本語教育学会秋季大会

2023年11月25日（土）・11月26日（日）
山形テルサ
（山形県山形市）

◆開会式 25日（土）13時 テルサホール◆

会長挨拶：西口光一（公益社団法人日本語教育学会会長）

司 会：宇佐美洋（公益社団法人日本語教育学会大会委員長）

4年ぶりの会場で対面での大会となりました。この間に、日本語教育推進法を受けた制度整備の議論が行われ、本年6月には日本語教育機関の認定に関する法律が公布されました。そして、現在、この法律に基づき、日本語教育機関の認定、及び日本語教員養成機関と実践研修機関の登録に関する省令（施行規則）が制定されようとしています。文化庁では、この秋から、日本全国を6ブロックに分けての日本語教師養成・研修拠点整備推進事業も進めています。また、2024年4月には文部科学省内に日本語教育を所管する部署が新設され、これまで文化庁国語課が担ってきた業務が移行、教育未来創造会議は2033年までに留学生受入れ40万人、国内就職率60%を計画、厚生労働省では技能実習制度の見直しも検討されています。ひたひたと進む社会経済の巨大な変化の下で日本語教育の制度化とさらなる推進が進行しています。

こうした制度化の議論においても、また具体的な日本語教育や日本語活動の場においても本学会の会員は重要な役割を果たしてきましたし、今後も果たさなければなりません。日本語の習得を支援することを通して、すべての人が自分らしく人と関わって人生を分かち合いながら暮らし、そして成長していけるような社会と社会環境を作るべく、わたしたちの責務はますます高まっています。2日間の大会を通して、学術的な研究と議論を深めるとともに、日本語教育を専門とする者として自身及び学会の今後のあり方について仲間と共に語り合ってもらえればと思います。

公益社団法人日本語教育学会会長 西口光一

目次

| | |
|---------------|----|
| 大会日程 | 3 |
| 一般公開プログラム | 4 |
| 発表一覧：パネルセッション | 5 |
| 発表一覧：口頭発表 | 6 |
| 発表一覧：ポスター発表 | 10 |
| 同時開催イベント | 13 |
| 会場案内：会場への交通案内 | 22 |
| 会場案内：会場配置図 | 23 |

- ◆主催：公益社団法人日本語教育学会
- ◆大会参加費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - 会員 3,500 円
 - 会員（学生証をお持ちの方） 2,000 円
 - 会員でない方 5,000 円
 - 【当日受付】一律 5,000 円
- ◆交流会費：【事前登録 ※お支払い時に手数料がかかります】
 - ワンコイン 500 円
- ◆事前登録期間：2023 年 10 月 16 日（月）～ 11 月 15 日（水）
- ◆問合せ先：03-3262-4291/E-mail:taikai-office@nkg.or.jp（メールは前日まで）

今大会では、一般財団法人山形コンベンションビューローの開催支援補助金の申請にあたり、参加者名等の報告が必要となります。ご登録いただいた個人情報は、本申請における実績報告のためだけに使用させていただきます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

大会参加にあたり、手話通訳者・託児等の費用助成を希望する場合は、ウェブサイト上のご案内をご確認いただきまして、所定の期日までに申請をお願いいたします。

その他、なんらかの配慮を要する場合は、11月9日までに下記大会事務局までご相談ください。座席の確保など可能な範囲で対応いたします。また、期日までにご相談がない場合は対応できませんのでご了承ください。

◆大会日程◆

11月25日(土) 9:00

有料プログラム

12:10- 3階：アローズ 交流室 A
*わかばさん

13:00-13:50 1階：テルサホール
開会式
授賞式

14:00-15:30 1階：テルサホール
3階：アローズ
14:00-15:30 2階：リハール室
交流ひろば 第1部

15:45-17:15 1階：テルサホール
15:45-17:15 2階：リハール室
交流ひろば 第2部

17:30-18:30 1階：大会議室
交流会

10:00-12:00 1階：テルサホール
無料プログラム

12:00-17:00 3階：アローズ・ホワイエ
* 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)
1階：エントランスホール
受付(12:00-17:00) *わかば・コンシエールジュ (12:00-16:00)

* 印のイベントの概要は、13～21ページをご覧ください。

11月26日(日) 9:00

有料プログラム

9:30-12:00 1階：テルサホール
3階：アローズ (大)
3階：アローズ (小)
1階：テルサホール
* 実証研究がすすむ
* 国際交流基金
12:10-12:50 3階：アローズ(小)
* 実証研究がすすむ
1階：テルサホール
* 国際交流基金

10:50-12:20 2階：リハール室
ポスター発表 第1部

12:10-13:20 2階：ホワイエ
* 地域発信企画 (無料)

13:30-16:00 1階：テルサホール
3階：アローズ (大)
3階：アローズ (小)
12:40-14:10 2階：リハール室
ポスター発表 第2部

14:30-16:00 2階：リハール室
ポスター発表 第3部

12:10-13:20 2階：ホワイエ
* 地域発信企画 (無料)

8:45-15:00 3階：アローズ・ホワイエ
* 賛助団体会員出展ブース (書籍展示・団体紹介等) (無料)
1階：エントランスホール
受付(8:45-14:00) *わかば・コンシエールジュ (9:00-13:00)

無料プログラム

* 無料でご参加いただけます。

シンポジウム

外国人技能実習制度に求められる日本語教育 ～誰のため？ 何のため？～

11月25日（土）10:00～12:00 1階 テルサホール

日本では、少子高齢化等による人口減少を背景に、外国人労働者への依存度が年々高まっています。外国人技能実習制度に基づき来日した労働者（技能実習生）は、2022年12月末時点で、32万4,940人に上り、外国人登録者数全体の10.6%を占めています。

外国人技能実習制度は本来「国際貢献」を目的とした制度ですが、その実態は、日本の産業を支える労働力確保の側面もあり、制度の在り方と運用方法に矛盾が生じていると言っても過言ではありません。また、実習生への日本語教育・学習支援に関しては、実習生が日本語能力の不十分なまま就労・生活していることにより、職務上でも生活上でも様々な問題が生じていることが指摘されています。

本プログラムでは、外国人技能実習生の日本語能力と日本語学習をめぐる課題に焦点をあて、今秋を目途にとりまとめが予定されている特定技能の新制度を念頭に置きながら、技能実習生に対する日本語教育はだれが担うのか、受入れ企業や地域でできる日本語学習支援はどうあるべきかについて考えたいと思います。

パネリスト：

「技能実習生入国後講習の意義」

来日直後の実習生と監理団体通訳者によるコメント動画含む

栗又由利子氏

（(株)きぼう国際外語学院日本語教育事業部主任講師）

「技能実習生が地域日本語教室に求めること」

藤波大吾氏

（岩手地域日本語教育コーディネーター）

「送り出し国の日本語教育状況とその効果」

助川泰彦氏

（東京国際大学教授）

進行・趣旨説明：

内山夕輝氏（公益財団法人浜松国際交流協会 主幹）

パネルセッション

第1部 [14:00 ~ 15:30 (90分)]

第1会場

1階テルサホール
司会：横山紀子
(元・昭和女子大学)

①

三項関係モデルに基づく対話と
省察の実践—教師養成・研修への
応用を目指して—

香月裕介 (神戸学院大学)
鷹野恵 (筑紫女学園大学)
水戸貴久 (立命館アジア太平洋大学)

第2会場

3階アプローズ
司会：小山悟
(九州大学)

②

学習者をより深いディスカッショ
ンに導くための授業設計—日本語
教育におけるケースメソッドの可能
性—

鈴木秀明 (目白大学)
アドゥアヨムアヘゴ希佳子 (宝塚
大学)
鈴木綾乃 (横浜市立大学)
羅曉勤 (台中科技大学)

第2部 [15:45 ~ 17:15 (90分)]

第1会場

1階テルサホール
司会：石澤徹
(東京外国語大学)

③

「私」を語らせる行為—教師のオー
トエスノグラフィーから見えること
—

中井好男 (大阪大学)
佐野香織 (長崎国際大学)
嶋津百代 (関西大学)

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

| | 第 1 会場 | 第 2 会場 |
|---------------|--|--|
| | 1 階テルサホール 司会：川上尚恵 (神戸大学) | 3 階アプローズ(大) 司会：内山喜代成 (桜美林大学) |
| 9:30 ~ 10:00 | ① 複数の言語資本による社会参加の形—サハリン残留日本人永住帰国者 2 世のライフストーリーから— 佐藤正則 (山野美容芸術短期大学) 三代純平 (武蔵野美術大学) | ⑤ ピア・リーディングにおける思考を深めるための授業実践—TEach0therS を活用した試み— 雍靖 (一橋大学) |
| 10:10 ~ 10:40 | ② なぜ地域と連携した日本語教育実習を行うのか—大学の日本語教師養成課程担当教員の語りに現れたピリ— 早矢仕智子 (宮城学院女子大学) 澤邊裕子 (東北大学) 中川祐治 (大正大学) 西村美保 (清泉女子大学) 杉本香 (大阪大谷大学) | ⑥ 専任に至った日本語教師のキャリア形成過程の分析 富樫里真 (目白大学大学院生) |
| 10:50 ~ 11:20 | ③ 分野を越えた「専門家」の協働が必要となる場における「日本語教師の専門性」の捉え直し—一定住外国人就労支援をめぐる対話の分析を通して— 大平 幸 (立命館アジア太平洋大学) 藤浦五月 (武蔵野大学) | ⑦ キャリア形成につながる市民性育成のための日本語教育—ベトナム人技能実習生の語りから— Hoang Ngoc Bich Tran (岡山大学大学院生) |
| 11:30 ~ 12:00 | ④ LTD は学習への深いアプローチにどのようにつながるか—JFL 環境における日本語学習者を対象として— 富田郁子 (コンケン大学) | ⑧ ベトナム人 EPA 候補者の職場環境におけるコミュニケーション課題—一番の困難点はどこか— 渡辺幸子 (フリーランス) |

口頭発表 午前の部 [9:30 ~ 12:00 (各 30 分)]

第3会場

3階アプローチ(小)
司会：菅生早千江
(共立女子短期大学)

- | | |
|---------------|---|
| 9:30 ~ 10:00 | <p>⑨ 中国人日本語学習者の読解活動における思考過程と理解</p> <p>徐国傑 (神田外語大学大学院生)</p> |
| 10:10 ~ 10:40 | <p>⑩ 日本語習熟度別に見た多読の効果の検証</p> <p>吉川達 (立命館大学)</p> |
| 10:50 ~ 11:20 | <p>⑪ 中国語を母語とする日本語学習者の希望表現「たい」の使用—日本語母語話者との比較および母語の影響—</p> <p>謝正科 (一橋大学大学院生)</p> |
| 11:30 ~ 12:00 | <p>⑫ 中国人日本語学習者の聴解活動における未知のオノマトペの意味推測—有声音・無声音の弁別能力, 音象徴知識, 文脈量に着目して—</p> <p>柏晨悦 (お茶の水女子大学大学院生)</p> |

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

| | 第 1 会場 | 第 2 会場 |
|---------------|--|--|
| | 1 階テルサホール 司会：森篤嗣 (武庫川女子大学) | 3 階アプローズ(大) 司会：鈴木秀明 (目白大学) |
| 13:30 ~ 14:00 | <p>⑬ 初・中・上級日本語学習者を対象にしたアンケート調査にみられる位置を表す名詞に後接する「に」の誤用—中間言語形成の可能性について—</p> <p>梅林佑美 (京都外国語大学大学院生)</p> | <p>⑰ 学会誌から見る質的研究方法の動向—応用言語学文献レビューとの比較を通して—</p> <p>八木真奈美 (駿河台大学)</p> |
| 14:10 ~ 14:40 | <p>⑭ 外国人幼児に向けた概念形成のための日本語支援—ダイナミック・アセスメントを援用した分析—</p> <p>石垣尚子 (横浜国立大学大学院生)</p> | <p>⑱ ChatGPT による日本語作文の自動採点</p> <p>李在鎬 (早稲田大学)</p> |
| 14:50 ~ 15:20 | <p>⑮ 越境を生きる繫生語の子どもたち</p> <p>トムソン木下千尋 (The University of New South Wales)</p> | <p>⑲ 日本の IT 企業に勤務する外国籍社員が考えるビジネス文書の「感じのよい書き方」—フリマアプリ運営会社から利用者へのメッセージにおける情報伝達と感情伝達—</p> <p>藤原未雪 (メルカリ) 中北美千子 (名古屋外国語大学)</p> |
| 15:30 ~ 16:00 | <p>⑯ 漢字字形学習のための教育漢字 1,026 字の字形分解—JSL 児童生徒のための効率的な漢字学習を目指して—</p> <p>早川杏子 (一橋大学) 本多由美子 (国立国語研究所)</p> | <p>⑳ AI によるアイデアユニット近似評価法の開発と日本語読解授業への応用—第二言語学習者の再生文評価における効率性と客観性の向上を目指して—</p> <p>甘利実乃 (東京外国語大学大学院生)</p> |

口頭発表 午後の部 [13:30 ~ 16:00 (各 30 分)]

第3会場

3階アプローチ(小)
司会：野田尚史
(日本大学)

- | | |
|---------------|--|
| 13:30 ~ 14:00 | <p>㉑ 日常談話における「こう」の機能とそのシラバス化検討</p> <p>西村史子 (ワイカト大学) 鹿嶋恵 (熊本大学)</p> |
| 14:10 ~ 14:40 | <p>㉒ インタビューにおける「かね」を用いた質問</p> <p>山本真理 (関西学院大学)</p> |
| 14:50 ~ 15:20 | <p>㉓ 討論における「譲歩」の使用傾向とその特徴—日・中母語場面の相違に着目して—</p> <p>謝カン月 (名古屋大学大学院生)</p> |
| 15:30 ~ 16:00 | <p>㉔ 漢字熟語とその構成要素—学習者の意味の保持につながる提示方法を探る—</p> <p>萩原章子 (お茶の水女子大学)</p> |

ポスター発表

第1部 [10:50 ~ 12:20 (90分)]

2階 リハーサル室

①

文学研究者を対象とした引用形態の使い分け意図に関する調査報告

中村かおり (拓殖大学)
向井留美子 (愛媛大学)
近藤裕子 (山梨学院大学)

②

話し言葉における談話標識「いや」の使用—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較から—

彭津 (東京外国語大学大学院生)

③

外向的でない学習者のピア・レスポンスでの発話—いかに対話を支援できるか—

浅津嘉之 (関西学院大学)

④

大学留学中の中国語を母語とする日本語学習者における発話の質的・量的変化に関する一考察

中原郷子 (長崎外国語大学)
安田真由美 (同)

⑤

専任日本語教師をファシリテーターとする相互研修型の授業観察の取り組みの成果—授業者・観察者の立場で参加した日本語教師を対象とした調査から—

野瀬由季子 (関西学院大学)

⑥

日本語インタビューテストにみられるメタ言語表現の分類とその役割—上級・超級韓国語母語話者に着目して—

西部由佳 (早稲田大学)・岩佐詩子 (桜美林大学)・奥村圭子 (山梨大学)・金庭久美子 (目白大学)・坂井菜緒 (武蔵大学)・萩原孝恵 (山梨県立大学)

⑦

日本語学校教員は「日本語教育の参照枠」とどのように向き合ったか—現場 Cando 作成を通して得た成果と課題—

水井佑美 (友国際文化学院)
鎌田亜紀子 (同)

⑧

特別支援学校(視覚障害)で三療を学ぶ留学生の日本語学習支援ニーズ—「生理学」の学習方法に関するインタビュー調査より—

河住有希子 (日本工業大学)
藤田恵 (日本国際教育支援協会)

⑨

「特別の教育課程」としての日本語指導に関する教員の認識—研修参加者のアンケート調査から—

齋藤ひろみ (東京学芸大学)・市瀬智紀 (宮城教育大学)・河野俊之 (横浜国立大学教育人間科学部)・工藤聖子 (文教大学)・小西円 (東京学芸大学)・谷啓子 (東京女子大学)・米本和弘 (東京学芸大学)

⑩

日本語の母語場面と接触場面の雑談におけるナラティブの分析—コミュニケーション上の機能の観点から—

夏雨佳 (東京外国語大学大学院生)

⑪

言語教育におけるアニメを用いた実践報告の縦断的分析

臼井直也 (デジタルハリウッド大学)
清水美帆 (帝京大学)

ポスター発表

第2部 [12:40 ~ 14:10 (90分)]

2階 リハーサル室

⑫

インドネシアにおける21世紀型スキル育成を目指した日本語授業の実態と教師の意識—ジャカルタ首都圏地域の高校の調査から—

古内綾子 (明治大学)

⑬

散在地域における『日本語指導が必要』な高校生支援の課題

原瑞穂 (上越教育大学)
青木由香 (アレッツェ高岡)
齋藤ひろみ (東京学芸大学)

⑭

多文化・多言語な子供たちの学びにNHK for Schoolをどう生かす?

生田佳澄 (静岡県沼津市立開北小学校)

⑮

外国人スポーツ留学生を対象とした日本語教育で何ができるのか—留学生へのインタビュー調査からみえたこと—

渡辺史央 (京都産業大学)

⑯

海外に赴く日本語教師の資質・能力」の再検討—海外経験のある教師教育者による省察的討論をもとに—

門脇 薫 (摂南大学)・嶋津百代 (関西大学)・杉本香 (大阪大谷大学)・中谷潤子 (大阪産業大学)・坪根由香里 (大阪観光大学)・中山英治 (大阪産業大学)・北出慶子 (立命館大学)・西村美保 (清泉女子大学)・伊澤明香 (関西大学)・松尾憲暁 (岐阜大学)・佐野香織 (長崎国際大学)

⑰

エントリーシート自己PR文で用いられる語彙の分析

重田美咲 (広島市立大学)

⑱

オンライン授業の実践知をどのように再構築するか—プレゼンスの観点からの考察—

保坂敏子 (日本大学)
藤本かおる (武蔵野大学)
高橋薫 (創価大学)
尹智鉉 (中央大学)

⑲

外国人看護・介護スタッフのための方言学習用アプリ教材の開発

和田礼子 (鹿児島大学)
吉里さち子 (熊本大学)
大庭理恵子 (同)

⑳

台湾日本語学習者に対するオンラインインタビュー活動を通じた「教養としての日本語教育学」の学び

守屋久美子 (東京外国語大学大学院生)

㉑

日本でベトナム人技能実習生支援を行うベトナム人女性のキャリア形成のプロセス—なぜ彼女は支援を続けるのか—

秋田美帆 (関西学院大学)
牛窪隆太 (東洋大学)
徳田淳子 (東京中央日本語学院)

㉒

LMSを活用した初級漢字添削コースの開発・試行・課題—学部国際コース正規留学生を対象に—

柴田あづさ (九州大学)

ポスター発表

第3部 [14:30 ~ 16:00 (90分)]

2階 リハーサル室

⑳

東北3県の連携事業による地域専門人材養成の課題—受講生の学びと修了後のキャリアから—

仁科浩美 (山形大学)
松岡洋子 (岩手大学)
嶋ちはる (国際教養大学)
今泉智子 (山形大学)
内海由美子 (同)

㉑

移住地における外国人信徒の内的世界と日本語の意味付け—東日本大震災被災者のライフストーリー—

松本美香子 (早稲田大学大学院生)

㉒

外国人介護就労者向けの介護専門用語教材の掲載語の改訂

中川健司 (横浜国立大学)
黄海洪 (京都大学大学院生)
齊藤真美 (日越大学)

㉓

「就労者に対する日本語教師研修」における受講生の学び—「プラットフォーム」という概念をめぐる—

堀井恵子 (武蔵野大学名誉教授)

㉔

通常の学級に在籍する日常会話に不自由のないJSL児童の語彙理解と支援について—小学校国語教科書の物語教材に現れる「オノマトペ」とおして—

山近佐知子 (横浜国立大学大学院生)

㉕

大学院留学生のキャリア形成過程に関する探索的研究—人的・物理的環境と心理的課題を中心に—

寅丸真澄 (早稲田大学日本語教育研究センター)・佐藤正則 (山野美容芸術短期大学)・松本明香 (東京立正短期大学)・家根橋伸子 (東亜大学)

㉖

オンライン授業におけるディスカッション練習で生じた「沈黙」から探る学習指導

藤浦五月 (武蔵野大学)
宇野聖子 (京都大学)
桑野幸子 (武蔵野大学)
佐々木馨 (同)

㉗

日本語聴解テストにおける選択枝の有無が結果に与える影響

島田めぐみ (日本大学)・岡部康子 (東呉大学大学院生)・サスミタレギウィジャヤ (広島大学大学院生)・佐藤孝一 (日本大学大学院修了生)・谷部弘子 (東京学芸大学)

㉘

年少者の日本語教育実践に関わる指導者の実践力を向上させるための持続可能な方法とは—「JSLバンドスケール」を使用したオンライン講座の実践を通して—

川上郁雄 (早稲田大学)
塩田紀子 (早稲田大学大学院修了生)

㉙

生活 Cando を活用した外国人保護者対象の日本語教育活動の試案—フォーカス・グループのデータをもとに—

杉本香 (大阪大谷大学)
樋口尊子 (同)

同時開催イベント

賛助団体会員出展ブース

〔11月25日（土）12:00～17:00, 26日（日）8:45～15:00〕

会場：3階 アプローズ・ホワイエ

出展：公益社団法人日本語教育学会 賛助会員団体

本会には賛助会員という会員種別があり、全国の出版社、書店、日本語学校、企業、NPO 団体等、51 団体が入会しています。(2023 年 9 月現在)

賛助会員の皆様からは、日本語教育全体の発展と本会の運営の促進のために多大なご協力をいただいています。

「賛助団体会員出展ブース」では、各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材のラインアップ展示や販売等を行います。最新の書籍等を手にとって見られる絶好の機会かと思えます。

また、賛助会員と大会参加者との交流、参加者間のネットワーク作りの促進、日本語教育及び関連領域の情報提供、情報交流、広報等の場としてもお役立てください。

ブースは土日を通して設置していますので、会期中はお気軽に足をお運びください。

わかば・コンシェルジュ

〔11月25日（土）12:00～16:00, 26日（日）9:00～13:00〕

会場：1階 エントランスホール

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「発表での質問のし方がわからない」「〇〇先生と話したいけれど顔がわからない」など学会参加についてわからないことがあったら、いつでもコンシェルジュブースに来てください。

黄色い法被を着た委員がみなさんの質問・疑問にお答えします。

同時開催イベント

わかばさんいらっしやい

〔11月25日（土）12:10～12:55〕

会場：3階 交流室 A

主催：公益社団法人日本語教育学会 チャレンジ支援委員会

「わかばさん」とは、日本語教育を学ぶ学生・大学院生、日本語教育を始めたばかりの方、教育経験は長くても研究活動を始めたばかりの方などです。チャレンジ支援委員会は、わかばさんがスムーズに大会に参加できるようにサポートします。

〈わかばさんいらっしやい〉

「わかばさんいらっしやい」では、大会で行われる各種発表の形式、聞く発表の選び方、大会の楽しみ方など大会参加のガイダンスを行います。同時にわかばさん同士の情報交換、ネットワーク作りのための交流会を開催します。事前申し込みを推奨しますが、人数に余裕があれば飛び込み参加も受け付けます。

ぜひご参加ください。

交流ひろば

〔11月25日（土）第1部 14:00～15:30／第2部 15:45～17:15〕

会場：2階リハーサル室

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

支部活動委員会では、「人をつなぎ、社会を作る」という理念体系に掲げられた使命と「日本語教育の情報交流を促進する」という事業方針を実現するために、秋季大会でも「交流ひろば」を開催します。

「交流ひろば」では出展者の教育実践や研究の紹介・共有、そして参加者との情報・意見交換が行われます。審査を経た発表ではありませんが、出展を通して同じ興味や問題意識を持つ者同士がネットワークを拡げることが目的とした企画です。

本大会では、デジタル教材の作成やオンライン教育の実践、さまざまな背景を持った学習者に対する教育実践や教材紹介、地域の課題解決を目指した取り組みなど、日本語教師が直面する現場での課題や日々の興味・関心ごとをテーマとして取り上げた多様な取り組みが紹介されます。実践的な取り組みの共有を通して、活発な交流が生まれることを期待しています。ぜひ、一度足を運んで意見・情報交換に参加してみてください。

* 出展の詳細は、17～20ページをご覧ください。

同時開催イベント

地域発信企画

〔11月26日（日）12:10～13:20〕

会場：2階ホワイエ

主催：公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会

地域発信企画は、日本語教育学会秋季大会の開催地を対象地域としながら、その地域の日本語教育の様々な取り組みや成果を全国に発信することを目的に開催されます。

今年の開催地は東北の山形県です。東北地方には長年続けてきた日本語教室もあれば、新しくできた日本語教室もあります。どの教室も地域とのつながりをとても大切にしています。最近では、地域とのつながりを活かして、様々な機関と積極的に協働しながら、地域の外国人住民の支援を行っている教室もあります。今回の地域発信企画では、東北地方の様々なタイプの日本語教室をご紹介しますとともに、それぞれの教室の取り組みについて、参加者のみなさんと情報交換をしたいと思っています。みなさんの地域の教室を新しく展開させる、あるいは新しい教室を開くためのヒントが見つかるかもしれません。ぜひご参加ください。

* 出展の詳細は、21ページをご覧ください。

調査研究推進セミナー

「実践研究のすすめ—社会的文脈を踏まえた教育実践を目指して—」

〔11月26日（日）12:10～12:50〕

会場：3階アプローズ（小）

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

本企画は、調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。この度のセミナーでは、武蔵野美術大学教授の三代純平氏を講師に迎え、実践研究の意義と方法、研究倫理について三代氏の知見を交えながらお話しいただく予定です。ぜひご参加いただき、実践研究への理解を深めるとともに、自身の教育実践と社会的文脈の関わりについて考える機会としていただければと思います。

当日は、以下のスケジュールで進める予定です。

- ・ 12:10～12:40 趣旨説明・講師講演
- ・ 12:40～12:50 質疑応答

セミナーへの事前申込は不要ですが、大会への参加申込者を対象としています。当日の来場先着順です。

皆様のご参加をお待ちしています。

同時開催イベント

外国人材の円滑な受入れ・共生社会の実現にむけて — 『いろどり 生活の日本語』を活用した日本語学習の継続—

〔11月26日（日）12:10～12:50〕

会場：1階テルサホール

主催：独立行政法人国際交流基金

外国人材の円滑な受入れ・共生社会の実現に向けての様々な取り組みが進む中、国際交流基金でも、2019年度より「特定技能」を中心とする外国人材向けの日本語事業に取り組んできました。本秋季大会では、日本語コースブック『いろどり 生活の日本語』や、「いろどり日本語オンラインコース」などのリソースをご紹介します。

日本で生活や仕事をする際に必要となる基礎的な日本語のコミュニケーション力を身につけるために開発・提供しているこれらのリソースを、来日前の準備に留まらず来日後の学習者や地域における日本語教育支援などでどのように活用していくことができるか、参加者の皆さんからのアイデアを歓迎いたします。

前半【14:00～15:30】

① 共生社会づくりにつながる対話的な日本語教育のありかた—『わたしにほ』とその教育実践から考える—
萬浪絵理 (国際活動市民中心), 西山陽子 (同)

NPO 法人国際活動市民中心 (CINGA) は、2020年に、生活者のための日本語学習教材『わたしをつたえるにほんご』を作成し、文化庁委託日本語教育事業にて教育実践研究を重ねてきました。交流ひろばでは、この教材と実践に関心を持ってくださる皆さんと、共生社会づくりにつながる対話的な日本語教育について意見交換したいと考えています。お待ちしております。

② 官学民協働プロジェクト「親子 de 多文化交流」をめぐる実践研究

福村真紀子 (茨城大学), 三代純平 (武蔵野美術大学)

私たちは官学民協働プロジェクトを通して、日本語教育のあり方を模索する実践研究をしています。具体的には、1年に1回、地域のいろいろな国や地域にルーツを持つ親子のための交流イベントを企画・実施し、その意義について検討します。様々な地域で様々な立場の人たちと協働して活動している方々と意見交換をしたいです。

③ 基本動詞ハンドブック：多義動詞の教育・学習用オンラインツール

プラシャント・パルデシ (国立国語研究所), 砂川有里子 (筑波大学)

日本語学習者にとって、日本語の運用能力を向上させるためには、使用頻度の高い基本動詞の体系的な学習が不可欠です。具体的には、基本動詞の意味拡張、文法的な振舞いなどの全体像を把握することが重要になります。基本動詞ハンドブックはこのような学習者のニーズに応えるために造られた先駆的なオンラインリファレンスです。(https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/)

④ 「日本語学習アドバイジング」を考える

木下直子 (早稲田大学), トンプソン美恵子 (東京大学)

「日本語学習アドバイジング」とは、対話を通して日本語学習者の自律性を育むための学習支援です。いくつかの事例を通して自律性を促す問いかけや対応について考えてみたいと思います。興味・関心のある方は、ぜひお越しください。

⑤ 先輩留学生作成による「発表モデル動画」を用いた授業実践—大学留学生の口頭発表力育成のための授業デザイナー—

清水美帆 (帝京大学), 平田好 (同), 有田佳代 (同)

大学留学生の口頭発表力 (プレゼン力) 育成をテーマに教材開発と実践を行っています。大学でまだ発表経験がない1年次留学生にモデルを見せるため、先輩留学生と日本人学生がペアで「発表モデル動画」を作りました。その動画と授業実践について紹介しながら、口頭発表のための授業デザインについて一緒に考えたいです。

⑥ 日本語語彙学習アプリ「デジタル版 Vocabulary Battlers」の開発と課題

呂建輝 (岡山大学)

私は語学関連の教育システムを開発しています。「デジタル版 Vocabulary Battlers」の開発を機に、個別最適な学び、分野横断的な教育、教員への負担軽減等の実現を目指しています。教育現場へのAI活用をご検討中の方や、本研究開発プロジェクトに興味のある方はぜひお越しください。

⑦ 地域との協働を目指した日本語イマージョンプログラム @Beppu 鉄輪

住田環 (立命館アジア太平洋大学), 板井芳江 (同), 深山道助 (同), 渡辺若菜 (同)

私たちは留学生が、地元住民の方たちと交流しながら、自分たちが住んでいる地域についてより深く知り、地域の一員として自分たちの役割が考えられるようになることを目標にした日本語イマージョンプログラムを行っています。地域に入って学ぶ観点を取り入れた日本語プログラムについて興味のある方々と意見交換ができればと思っています。

⑧ 使ってみませんか? ストラテジーで学ぶ日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese !」

菊岡由夏 (国際交流基金日本語国際センター), 夷石寿賀子 (同)

2022年に公開した日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」の概要と番組を使った教育実践例をご紹介します。また、みなさんと一緒に、番組を日本語教育実践で活かす方法についてお話ができればうれしいです。

⑨日本語教室空白地域における日本語学習支援者の養成**二通信子** (北海道日本語センター)

出展者の所属する(一社)北海道日本語センターは、道内での日本語学習支援者の養成や活動へのサポートに取り組んでいます。今回の展示では、日本語教室空白地域での地域住民による日本語学習支援の役割や、支援者養成講座の内容、活動の立ち上げや持続に向けたサポートなどについて、皆様といっしょに考えたいと思います。

⑩在日外国人の運転免許取得と日本語教育—安心・安全な社会の構築のために—**萩原秀樹** (インターカルト日本語学校)

自動車運転免許の必要性が在日外国人の間で高まっています。「コウバイ」「ロソクタイ」「ガイソクセン」…免許の取得にはこうした語彙を覚えねばなりません。では、国際免許や語彙の言い換えなら安全性は確保されるのでしょうか。免許取得に向けた諸情報の整理、試験問題の検討…私たちが貢献できることを一緒に考えたいと思います。

⑪過疎地域 A 市で暮らす外国の人たち・地域の人たちの声を伝えたい—重奏する「声」を聴いて、私が考えること—**家根橋伸子** (東亜大学)

西日本の過疎地域で2年半、外国人住民の方たちのライフキャリア形成をテーマにフィールド調査をしてきました。外国人住民の方たちと地元の方たちがどう共に暮らしているのか、私がインタビューを通して聞かせていただいたその重奏する「声」を来場者の皆さんに伝え、課題について一緒に考えていきたいと思います。

⑫オンライン日本語教育の可能性と課題 (文化庁令和3年度補正予算事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」より)**西村学** (全国専門学校日本語教育協会), **柳澤好昭** (全日本学校法人日本語教育協議会), **香川陽子** (学校法人香川学園メロス言語学院), **阿部みのり** (株式会社 NIT ExC パートナー)

株式会社 NIT ExC パートナー・全日本学校法人日本語教育協議会・全国専門学校日本語教育協会が実施した文化庁令和3年度補正予算事業「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」の成果から、オンライン日本語教育の可能性を、留学・就労・生活や学校等で日本語教育に関わる方々と考えたいと思います。

後半【15:45～17:15】

⑬外国にルーツを持つ子どもが日本語で学ぶ力を身につける「日本語×教科」デジタル教材開発をめざした試み

小野塚若菜 (ベネッセ教育総合研究所), 森下みゆき (同)

わたしたちは、外国にルーツをもつ子どもの指導や支援に携わっている方々や、過去に当事者であった学習者へのインタビューなどを通して、日本語学習と教科学習を支援するためのデジタル教材の開発を検討しています。まずは中学校1年生の数学を対象に展開案を考えてみました。よりよい教材を目指す上で、皆さまにご意見を伺いたと思います。

⑭特別なニーズに沿った日本語入門教材を考える (視覚に障害のある日本語学習者のレストランでの会話)

藤田恵 (日本国際教育支援協会), 河住有希子 (日本工業大学), 中西溪 (社会福祉法人桜雲会)

私たちは点字を使って学ぶ日本語学習者のための学習環境、教授法、教材などを研究しているグループです。今回、レストランでの支援要請の会話を題材とした教材を試作しました。この教材を用いた模擬授業にご参加頂き、特別なニーズに沿った入門日本語教材の作成について、意見交換をしたいと思います。熟達した点字使用者の日本語教師とともに、視覚障害者への教育と支援を体験してみませんか。

⑮アスリート留学生に対する日本語教育の在り方の一考察—受け入れ大学へのアンケート調査および監督へのインタビュー調査から—

正宗鈴香 (大東文化大学), 日野純子 (帝京大学), 中山由佳 (山梨学院大学), 東会娟 (帝京大学),

岡本能里子 (東京国際大学)

私たちは、アスリート留学生のための日本語教育について研究を始めました。競技活動が学生生活の中心となる学生に対し、日本語教育実践の工夫だけでなく、日本語教師と部活の指導者の連携やキャリアも視野に入れた組織的な教育支援の必要性も感じています。同じような関心をお持ちの方々と意見交換できればと思っています。

⑯AI時代に求められるライティング学習・教育支援とは何か

伊集院郁子 (東京外国語大学), 李在鎬 (早稲田大学), 鈴木泰山 (株式会社ピコラボ)

私たちは、ライティング教育・学習を支援するウェブ教材やツールの開発について検討している研究グループです。文章生成AIの登場によって、ライティングのあり方も変化していくことが予想される中、AI時代に必要なライティング支援とは何か、変わるものと変わらないことは何かなど、皆様と自由に意見交換したいと思います。

⑰自然科学分野への橋渡しをめざす日本語読解教材の開発の試み

吉里さち子 (熊本大学), 鹿嶋恵 (同), 片山きよみ (同), 赤木昌子 (同)

このたび、自然科学分野への橋渡しを目指す中級後半レベルの日本語読解教材『日本語で読むサイエンス』を開発しました。各課では、学習者の既知情報を活かしつつ知的好奇心を刺激し、日本語力の向上を促す工夫をしました。会場では開発過程や特長を紹介し、改善や発展の可能性について意見交換をしたいと思います。

⑱日本語授業におけるサポート学生 (クラスゲスト) の運用の現状把握

鈴木美穂 (目白大学), 荻原まき (桜美林大学), 高橋恵利子 (防衛大学校)

私たち「日本語教育をつなげる研究会」は、大学の日本語クラスに参加するサポート学生 (クラスゲスト) の活用方法について研究しています。教室内でのサポート学生、クラスゲストの扱いについて、現場で同じような問題意識を持っている方と様々な情報・意見交換ができればと思っています。興味のある方はぜひお越しください。

⑲オンライン会話セッション「みんなのひろば」活動集の作成

岸野彩花 (東北大学大学院), 出蔵咲野 (仙台国際日本語学校)

東北大学日本語教育学研究室では、コロナ禍をきっかけに始めた日本語でたのしく話すオンラインセッション「みんなのひろば」の3年間の実践をふりかえり、活動集としてまとめました。オンライン交流をしている方、これからしたいと思っている方からご意見・アイデアをいただき、よりよい交流の場に向けた意見交換ができればと考えています。

⑩地域日本語教室のオンラインによる実施の在り方

深田絵里（愛媛大学）

日本語教室空白地域を対象にした、オンライン日本語クラスをコーディネートしています。オンラインクラスの実施には、同期型、非同期型、ハイフレックス等ありますが、地域の実情に合わせた実施の在り方を模索しています。いずれの方法においても課題があり、みなさんと情報共有しながら改善策、より良い実施方法について考えたいです。

⑪方言とコミュニケーションを楽しく学ぶためのコンテンツ開発

岩崎真梨子（八戸工業大学）、大室柊人（同）、清水目大務（同）、吉田真音（同）

私たちは、ASD や ADHD などの発達障害を持つ人たちがコミュニケーションをとりやすくなる方法について研究をしているグループです。自発的に楽しく学べるコンテンツを開発していきたいと考えています。まだ始めたばかりの研究なので、多くの意見をいただけたらと思っています。興味を持たれた方はぜひお越しください。

⑫地方在住の日本語教育関係者に向けた大会情報を伝える取り組み：「日本語教育学会大会参加報告会」7年間の実践

高橋志野（愛媛大学）、向井留実子（同）、築地伸美（同）、田代桜子（同）

私たちは、2017年度から7年間、日本語教育学会の春季・秋季大会後に「日本語教育学会大会参加報告会」を行ってきました。本出展では、今まで12回実施してきた「日本語教育学会大会参加報告会」の成果と課題について紹介するとともに、今後のあり方について、皆様と意見交換・情報共有をしたいと考えています。興味のある方はぜひお越しください。

⑬第二言語としての自国語教師認定試験について考えるー日本語・中国語・英語の比較分析からー

保坂敏子（日本大学大学院）、島田めぐみ（同）、谷部弘子（東京学芸大学）、岩澤平（日本語教師）

私たちは、日本語教師の資格に関する議論が始まったころから、世界ではどのような自国語教師の認定試験が実施されているかに興味を持ち、調査しました。本出展では、現行の日本語教師、中国語教師、英語教師の認定試験の比較分析を共有し、各試験で測ろうとしている資質・能力について皆さんと議論できればと考えています。

⑭メタバース・生成 AI の利用と読解教育の今後を考える

吉川達（立命館大学）

生成 AI やメタバースの出現は、日本語教育にも今後大きな影響を及ぼすように思われます。私は読解教育を研究対象の一つとしていますが、本出展では、これらの技術を今後読解教育にどのように利用していくのか、読解教育はどのような形になっていくのか、読解教育を行う必要性は残るのかについてみなさんと意見交換をしたいと思えます。

地域発信企画 in TOHOKU

東北における多様な取り組み

—地域のつながりと協働で目指す支援の充実—

第1部 [12:10 ~ 12:40 (30分)]

| ブース1 | ブース2 | ブース3 |
|--|--|--|
| 2階 テルサホール・ホワイエ | 2階 テルサホール・ホワイエ | 2階 テルサホール・ホワイエ |
| ① 散在地域における多様な日本語教育実践 【NPO 法人ヤマガタヤポニカ】 | ③ 外国につながる子どもたちの支援の充実をめざして 【山形子ども日本語サポートネット】 | ⑤ 多文化共生の地域づくり:「拠り所」としての日本語教室 【出羽庄内国際村日本語教室】 |

第2部 [12:50 ~ 13:20 (30分)]

| ブース1 | ブース2 | ブース3 |
|-----------------------------------|---|--|
| 2階 テルサホール・ホワイエ | 2階 テルサホール・ホワイエ | 2階 テルサホール・ホワイエ |
| ② 日本語ティールーム 33年の歩み 【日本語ティールーム】 | ④ 在住外国人コミュニティや諸機関との連携・協働実践 【Yurt 東北日本語教師協働会】 | ⑥ 地域日本語教室が取り組む多様な活動 【NPO 法人みちのく国際日本語教育センター】 |

※参加費：無料，事前申込不要。直接会場へお越しください。
本プログラムは，大会参加者以外でもどなたでもご参加いただけます。

●会場周辺地図

所在地:山形県山形市双葉町1-2-3



●公共交通機関

- ・最寄り駅は「JR山形駅」です。徒歩約10分。駅からつながる歩道をご利用ください。
- ・山形空港からは、空港シャトルバス・空港ライナー・レンタカー・タクシーなどの移動手段があります。

●駐車場

- ・山形テルサには無料駐車場の設備がないので、近隣の有料駐車場をご利用ください。

●山形テルサのURL

<https://yamagataterra.or.jp/access/>

■受付時間

25日=12:00~17:00

26日= 8:45~14:00

※申込・受付方法等の詳細は10月15日以降に本学会ウェブサイトで順次公開します。

※1日目に受付をされた方は、2日目は受付不要です。2日目も名札は必ず着用してください。

※館内に飲食店はございません。

